

随筆

各地の水辺を訪ねる－1

サントリーニ島の海

亀田 泰武*

1. はじめに

エーゲ海に散らばるいくつかの島のなかで、サントリーニ島は独特の景観を持っている。

外輪山が島になった火山島で、船で訪れた場合、島の間を通過してカルデラの内側の港に入る。船が島に近づくと、海面から突きだした、火山島の荒涼たる風景と、山稜に張り付いた、白い建物の街並みの景色に目を奪われる。建物の多くは小規模のホテルやレストランで、断崖の上から海を見ながらくつろぐという欧州の滞在型の保養地になっているようである。

エーゲ海のバックツアーは主にミコノス島とサントリーニ島が対象となり、クルージングで回ると高速船や飛行機で移動するツアーがある。ゆっくり写真を撮るには滞在時間の長い後者の方がいい。

2. サントリーニ島の地形

ここのカルデラは数十万年前にできたものである



断崖の町イア
船がカルデラに入って行くときの最初の景色

が、その後火山活動による噴出物で中央の島が長い間に成長して大崩壊し、また成長するという歴史を歩んできた。このカルデラの規模はスケールで阿蘇の2／3ほどの大きいものである。最新の大崩壊はミノア文明のときで、その前は外輪山がけっこうつながっていた。

サントリーニ島の西側は噴火の名残の断崖になっていて、ホテルなどが集中する中央のフィラや北端のイアの街は海面から高さ2百～3百mくらいの断崖にある。自動車の通れる上の道から、狭い、所々階段のある歩道を降りて急な崖地に立ち並ぶ小さいホテルなどに行くようになっていて、荷物は人手か、ときにロ



サントリーニ島地図

*KAMEDA Yasutake, (NPO)21世紀水倶楽部理事長
URL <http://www.mizumirai.net/sitema/>



ロープウェイとクルーズ船（フィラ）
6連のゴンドラが崖に貼り付いたホテル街と港を結ぶ。

バでしか運べない。

カルデラの中は水深が4百mもあって、外輪山が波を遮るので、港の立地は内湾のような島の西側がいいが、崖が急すぎて港から断崖の上に上がる道の建設が難しい。フィラでは下の港への上り下りはロープウェイか、細い急なロバ道を怖い思いをしてロバに乗っていくしかない。現在はずっと南のアティニオス港から崖を登る道路ができていてそちらの出入りが多いが、波止場が小さいので大型船が横付けできず、クルーズ船は街への距離の近いフィラに逗留するようである。高速大型フェリーで島に到着したとき、隣にも大型フェリーが到着していて出入りの車と迎えのバスや車で大混雑だった。

一方島の東側は火山の裾野のように比較的なだらかな地形で、ジェット機が離着陸する空港があるし、海水浴場となる砂浜もあり、火山噴出部の色により、黒い砂浜や赤い砂浜になっているところもある。

カルデラ中心の火山島は有史以来次第に大きくなって、上陸して火口近くまで行くことができる。

3. ミノアの噴火

近年の研究で大噴火は1883年のクラカトワ噴火の数倍の大規模であることが分かってきた。紀元前1600年頃と推定されている。噴出物は100立方キロメートルに及び、35～150mというとてつもない津波が110km離れたクレタ島を襲い、ミノア文明を崩壊させた。東日本大震災は4百年に一度の大災害であったが、数千年に一度という大災害はこんなものになるのであろう。

影響は北半球全体に及び、各地の樹木の年輪でこの頃のもの成長が遅いことが示され、年輪測定で紀元前1628年と報告されている。

中国の歴史書である竹書紀年では、この頃大気が黄色くかすみ、太陽がぼんやりして7月でも凍る寒さで、五穀がしおれて飢饉となり、これによって夏王朝が滅び殷王朝に変わったとある。昔習った時は殷王朝が最初であったが、近年の考古学では夏王朝の実在の可能性が高いとされるようになってきた。

ミノアの大噴火以降頻繁に噴火があり、時にはカルデラの外でも噴火している。最近では1950年に小規模なものがあった。2千年前カルデラ中央の火山は顔を出していなかったとされる。

4. アクロティーリの遺跡

噴火で埋まった街の発掘が1967年からはじまって、南端の地域が顔を出している。ポンペイのように火山噴出物で埋まった街なので、当時のものがそのまま残されているが、ここでは噴火の前に地震があり、多くの人は避難していたらしい。

2階や3階建ての建物や道路、広場などで、細工の良いレンガ造りや壁画がある、豊かな住宅街であって宮殿のような街でないことを示している。小麦の粉ひき場もあった。

家々にはすてきな壁画があり、排水システムを備え、水道管やトイレ、台所もあった。水道は冷水と温水の2系統で温水は温泉から引いていたと考えられる。紀元前16世紀よりも前の話である。ローマでは一般家庭にはトイレがなく、公衆トイレ、公衆浴場が一般的であった。

プラトンによるアトランティス伝説はサントリーニ島ではなかったかともいわれている。小生はノアの箱船の話のとも、この大噴火でなかったかと考える。大雨よりも大津波の方が現実味がある。

サントリーニに行ったのは2005年9月であったが丁度アクロティーリ遺跡で見学客が8人死傷する崩壊事故があつて閉鎖されていた。巻き込まれていたかもしれない運が良かった。遺跡見学は2012年の4月にやっと再開されている。

5. 街並み

一番大きなフィラでは、尾根を走る道路から、所々階段のある細い道を断崖の上に貼り付いたホテルやレストランに降りていくようになっている。建物は崖を削ってつくった真っ白な壁を持つ小規模なものが多く、屋根のない空間が食堂になったり、植物や飾り物を置いたりなどと独特の景観を示していて、変化に富



ホテルのテラス（イア）
青い海と水平線を眺めながらの静かな朝食



ホテル街（フィラ）
丸いドームは礼拝所

む街並みを見ながら細い道を歩くのは楽しい。数階建てのホテルはあまりない。一時コンクリートの建物が建てられたが地震で多くが被災してしまった。日本の耐震基準であれば大丈夫であろうが。ホテルは小さなプールを備え、断崖の上なのでカルデラの海を見下ろしながらくつろげる。第2の街イアも同じような街並みを示す。街中いたるところに小さい丸いドームと白壁のギリシャ正教の聖堂がある。

街はずいぶん昔からあり、眺めはいいが水も乏しいのにどうしてここに住んできたのか不思議である。断崖の上は割になだらかな地形になっていて、ブドウやトマトなどが栽培できるからであろうか。

6. フィラのレストラン

自由行動の日フィラのフェニックスというレストランを予約し、6時頃になって行っただが、お客はまだ少

なかった。席はちょうど夕日が沈むのをよく見られる、一番いいテラスの場所にあった。

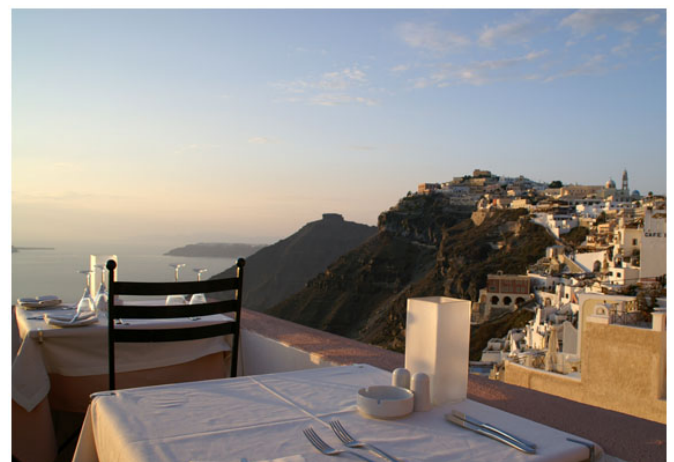
世界一の夕日を見られるのは島の北側のイアといわれている。断崖の上から、海で反射する光を見ることができるからであろうか。夕日の沈む頃になるとイアの西側は沢山の観光客が押し寄せる。フィラは西側に反対側の外輪山となるティラシア島があって、夏に夕日は水平線に沈まないが同様にいい風景を提供している。

そのテラスで海側に面した席は3つあり、案内された席はその一つ内側であった。ここも北側のへりにあり、ロープウェイの上り下りも、きれいな街も見えるけっこういい眺めの席であった。9月に入ると、滞在客も少なくなり、店も空きだして、急な予約でもいい席が取れ、観光に丁度いい。10月に入ると閉めるレストランも多くなり、季節風が吹き出すそうである。

魚料理を注文して、ゆっくり食べているうちに夕日が沈み、だんだん辺りが暗くなって、灯りがともって



アギオス・ミナス教会と火山島
青い屋根と白い鐘楼が美しく、島のシンボルに。
向こうは火山のあるネア・カメニ島。



レストランの夕方
遅くなって前の席に新婚さんが

いく様は絵になる景色で、気に入った写真を沢山撮ることができた。街の写真をあとで見たら、入り口とホールだけは明るいが、人影が見えない小さなホテルのテラスに佇む若い女性が写っていて、感傷的な一枚となった。

一番いいと思える前の角の席はずっと空いていたが、ご飯を食べ終える頃、予約客が現れた。それは結婚披露宴を終えたばかりのカップルで、ふたりとも結婚衣装を着たまま。写真撮影の人が来たりして、パーティが終わってあとはここで二人だけの時間を過ごすようであった。

7. ホテルの水

ホテルはマジスティックというフィラの街から少し南に歩いた稜線にある新築のリゾートホテルで、ホテルから東西の海が見える。大きなプールもあって青い水をたたえていたが、泳ぐには少し寒い頃となっていた。

ある朝タンクローリーがホテルの前の道路に止まっていた水を供給していたのでびっくり。最新のホテルなので上水道が入っているものとばかり思っていた。また、排水がどうなっているか見たいのででかけた一段低い東側の土地ははブドウ畑で、ホテルから排水が下流に流れている形跡がなかった。ブドウ畑と言ってもここでは露地栽培で、木の高さも1mないくらい小さい。あとで、ホテルの人に排水のことについて聞いてみたところ、水を買っているが、排水は下水道に入れているとのことであった。確かにホテルの西に接して幹線道路が走っているのだからそこに下水道管が入っているのだろうか。水が貴重なところなので下水を再利用しているのかもしれない。専門家でない話がどの程



ホテル下のブドウ畑
背が低く、野菜畑のよう。

度本当なのもある

8. 火山島ツアー

フィラの港から観光船がでている。港に降りるのにロープウェイかロバに乗るのかどちらかとなる。ロバは断崖沿いの狭い道を上り下りするので怖い。ロープウェイはクルーズ船が来ているときは非常に混雑する。火山のある島に上陸すると、真っ黒のごつごつした噴火したばかりのような溶岩が迎えてくれる。火口近くは硫黄の臭いがし、所々蒸気が出ていて活火山という感じである。あちこちの港から来る船が何隻も着いていて、乗る船が変わったりするので帰りの船を確かめておかなければならない。

9. 終わりに

サントリーニ島は不思議な魅力を持っている。時間とお金があったら、断崖の小さいホテルに長期逗留して、海を眺めて過ごすのがいいのだろう。

ポンペイが火砕流で埋まったのは紀元79年であるが、アクロティーリが埋まったのはその1700年も前のことで、発掘調査が進んでミノアがどんな文明だったのかももっと知りたいものである。

数千年後かいつか、また大きな気候変動をもたらすような大噴火を起こすだろうがその時までに対策ができていだろうか。

出典

SANTORINI Michalis Toubis S.A. ATHENS 1998

Santorini wikipedia

Minoan eruption Wikipedia



夕方のイアの街